

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第2号



市内各地で「天王様」が行われました。祇園祭てんのうさまが行われる八坂神社（京都市）の祭神がかつて牛頭天王だったことから、祇園祭を模した各地の祭りが「天王様」と呼ばれています。

写真はくりはし夏祭り。神輿は市指定の有形民俗文化財となっています。

市内で行われた主な天王様

- 提 燈 祭 り 7 月 12・18 日（日・土）
- 上清久の天王様 7 月 12 日（日）
- 菖 蒲 夏 祭 り 7 月 12 日（日）
- くりはし夏祭り 7 月 18・19 日（土・日）
- 鷲宮の八坂祭 7 月 26 日（日）

目

次

- 神楽の世界② 楽器 2
- 久喜ゆかりの人物 中島撫山① . . . 2
- 名品? 珍品? 収蔵資料紹介② 虎綱 3
- ご利用ください 本多静六記念館 . . . 3
- 参加者募集 4

鷲宮催馬楽神楽神楽伝承教室

鷲宮神社に伝わる鷲宮催馬楽神楽は関東神楽の源流とされ、国指定の重要無形民俗文化財となっている久喜市の誇る伝統芸能です。この「神楽の世界」では催馬楽神楽についてシリーズで紹介していきます。今回は催馬楽神楽で使われる楽器です。

催馬楽神楽で使用する楽器は、笛・大拍子・大太鼓・小太鼓の4種類です。楽器の演奏者を拍子方と呼びますが、各楽器の拍子方は一人で、神楽殿奥の鏡板の前にある囃子座に並んで座ります。

笛は、指で押さえる孔が7つある横笛を使います。ほかの楽器が神楽保存会の所有で人が代わっても同じ楽器を使うのに対して、笛は拍子方個人の所有で人によって使用している笛の種類が異なります。現在は、龍笛や自作の笛などを使用しています。龍笛は雅楽で用いられている笛です。また、自作の笛は「笛の名人」といわれた白石國蔵さん手作りの笛を模して作ったものです。笛は舞人が特定の所作に移ると曲を切ったり変えたりするなど、舞人の動きを見ながら吹く必要があります。

大拍子と小太鼓は、いわゆる締太鼓です。大拍子は打楽器をリードする楽器です。竹を削って作った撥で横から叩きます。

大太鼓は三つ巴の紋が入った錨打ちの太鼓です。両側から叩くのが特徴です。大太鼓と小太鼓は同じリズムで演奏します。

また、催馬楽神楽では演目の途中で催馬楽や神楽歌を謡う場面がありますが、現在は拍子方がその役を担っています。

(郷土資料館学芸員 池尻 篤)

参考文献

埼玉県立民俗文化センター 2002 『鷲宮催馬楽神楽』

埼玉県民俗芸能調査報告書第15集



催馬楽神楽の拍子方

向かって右から笛、大拍子、大太鼓、小太鼓

久喜ゆかりの人物

中島 撫山 ①

文政12年(1829)4月12日~明治44年(1911)6月24日

文政12年(1829)4月12日、江戸亀戸(東京都江東区)に生まれました。本名は「慶太郎」、通称「慶」。字を「伯章」、号は「撫山」・「演孔堂」・「佐知麻呂」・「尾張連」などと言いました。

少年期、漢学を出井貞順に学び、その紹介で亀田綾瀬・鷲谷父子に師事しました。安政5年(1858)に江戸両国矢ノ倉で漢学塾「演孔堂」を開きましたが、翌年神田お玉ヶ池に開塾していた同門の新井稻亭が亡くなったため、門下生の要請で稻亭の塾があった神田に移りました。慶応2年



中島 撫山

(1866)に鹿室村(さいたま市岩槻区)で私塾を営んでいた稻亭の子桐陰が亡くなると、門下生が前例にならって撫山を同地に招きました。当時、江戸は騒乱の真っ最中であったので、これを避けて撫山も鹿室村に移りました。

続いて明治2年(1869)12月、久喜本町に移り、明治5年(1872)戸籍令が發布されると、本籍を久喜本町に編製、この地に永住することにしました。明治6年(1873)8月、神道教導少講義に補せられました。これを機に自宅に皇漢学塾「幸魂教舎」を開きました。これは、江戸時代後期に「遷善館」が創られ、その教授として亀田鵬齋や師の亀田綾瀬が招かれ、学問を講じたゆかりの土地であり、その教えを受けた多くの人々が撫山を歓迎し温かい手をさしのべたからと伝えられています。

(次号に続く)

(文化財保護課学芸員 中村 和夫)

名品？珍品？

収蔵資料紹介 ②

とら づな
虎 綱

— 将軍様の足元を支えた綱？！



虎 綱

元和2年(1616)、徳川家康が駿府城で亡くなり、今年で400回忌を迎えます。家康を祭神とする日光東照宮では、400年式年大祭が催されるなど、各地で家康の顕彰事業が実施されています。

江戸時代、徳川将軍家では、祖である家康の命日4月17日に日光東照宮を参拝しました。この日光社参は、2代将軍徳川秀忠から12代将軍徳川家慶まで、計19回実施されました。日光社参では、日光御成道を通り、幸手宿で日光道中と合流し、栗橋宿で利根川を渡りました。利根川では架橋が禁じられていたため、

通常は渡船(房川渡し)が利用されていましたが、将軍渡河の際には船を並べた臨時の橋「船橋」が設けられました。展示室1(常設展示)の近世コーナーでは、最後の日光社参となる、天保14年(1843)の船橋に使用された「虎綱」が展示されています。

虎綱は、船橋を支えるための綱で、削いだ檜を撚り合わせて作られました。天保14年の船橋を描いた絵図には、利根川上流から張られた2~3本の虎綱が確認されます。船橋には、石俵や碇などで固定された高瀬船が51艘並べられ、その上に桁→敷丸太→鹿朶→ねこだ筵→敷砂が置かれ、その上を将軍一行が通過しました。この船橋を支えた虎綱は、時代によって異なるものの、天保14年には長さ230間(約418.1m)の虎綱が使用されました。展示されている虎綱はこの一部です。

(文化財保護課学芸員 巻島 千明)

ご利用ください

本多静六記念館

本多静六記念館は「日本の公園の父」と呼ばれる名誉市民・本多静六博士の没60年を記念して、平成25年4月21日に開館しました。同館はこれまでの「本多静六記念室」から移動し、広さ約200㎡、展示資料約300点に拡充したものです。「観て楽しめる」をモットーに、写真やポスターを多用するとともに模型や映像、パソコンを用いた情報検索機器などを配備しています。また車椅子利用の方にも見学しやすいようバリアフリーにも配慮しました。

記念館では、博士の代表的な業績の一つともいえる明治神宮の森を再現しています。記念館の壁面上部に目をやると周囲を神苑の代表的な樹木であるクスノキ・アラカシ・スダジイ・シラカシをデザインした緑色のシルエットが囲み、さらにガイダンス映像の待機画面では実際の森の様子とそこに生息する野鳥のさえずりが常時流れるようになっています。

展示ケースに目を転じると、学生時代の自筆の教科書やノート、手紙などが目にとまります。中でも

東京山林学校時代に落第点を取り、それをきっかけに猛勉強に励むようになったという逸話を残す「幾何学」と「代数学」のノートは興味深いものです。

見学は無料です。団体等の見学で案内を希望される場合は事前の申し込みをお願いしています。

所在地 久喜市菖蒲町新堀 38 (菖蒲総合支所 5階)

電話 0480 (85) 1111 (内線 372)

アクセス J R 宇都宮線久喜駅西口から朝日バス「菖蒲仲橋」行き終点下車、徒歩 10分

休館日 土曜日、祝日、年末・年始

開館時間 9:00 ~ 17:00



参 加 者 募 集

鷺宮催馬楽神楽伝承教室

国指定重要無形民俗文化財である鷺宮催馬楽神楽を基礎から練習し、成果を鷺宮文化祭で発表します。

日 時

練習 9月2日・9日・16日・30日、
10月7日・14日・21日（すべて水曜日）
19時～21時

発表 10月25日（日曜日）
昼（時間未定）

対 象

どなたでも（小学生以下は保護者同伴）

場 所

練習 郷土資料館視聴覚ホール
発表 コミュニティ広場（鷺宮総合支所前）

定 員

20名（申込順）

申込開始

8月25日（火曜日）

費 用

無 料

申 込 み

郷土資料館まで（電話・窓口）



練習風景



発表風景

昨年度の伝承教室

編集後記

今号から新たに「久喜ゆかりの人物」のコーナーを設けました。久喜のゆかりのある人物を紹介していきますのでご期待ください。

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第2号

発行 平成27年（2015）8月18日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷺宮 5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

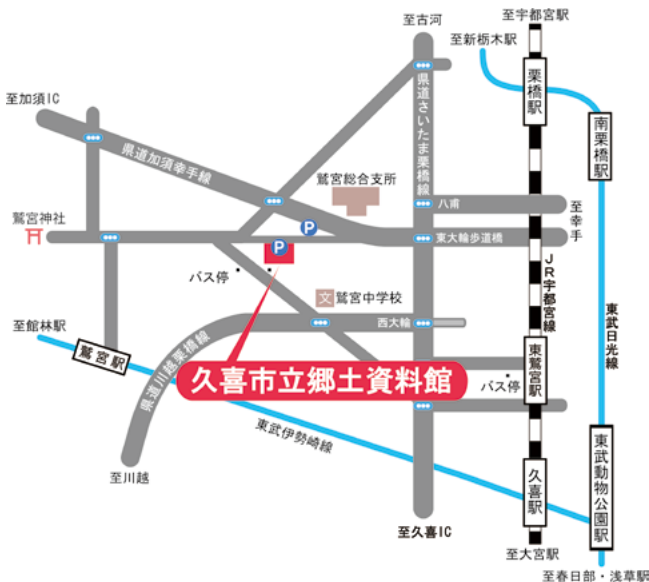
URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日（祝日除く）、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります



電車で

- 東武伊勢崎線 鷺宮駅下車 徒歩15分
- JR宇都宮線 東鷺宮駅下車「加須川口循環」行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから15分
久喜インターから15分